★今話題の「オープンダイアローグ」とは、統合失調症なるものに対する方法としてフィンランドの過疎地域で生まれ、抗精神病薬や支援体制に対する概念を大きく変え、これまでの常識を覆えそうにとしている方法であり、考え方です。そこには専門家の在り方を根底から見直させる発想があり、精神医療の領域を超えて、大きく注目されて来ています。医療や福祉をはるかに超える可能性をもっているからです。

オープンダイアローグの基礎、「Iフレクティング・プロセスを学ぶ コーディネイタ/ファシリティタ:功久(いさく)

しかし、オープンダイアローグを理解する多くの人は、これが日本の医療や福祉の中に入るには極めて大きな困難があると予想しています。外からの制度上の抵抗はもちろんですが、グループを支配する文化的抵抗は、それ以上かもしれません。 創設者の一人であるヤーコ・セイックラはオープンダイアローグとは"治療法というより political thing だ"と言っています。しかし、日本では「政治」と言い出したら、それだけで多くの人が引いてしまう。これは一体なぜでしょう? このことこそ文化的抵抗と 深くつながっているかと思います。★こうしたことを心に留めておきながら、オープンダイアローグの実際のなかで基軸として使われているリフレクティングを、まずは学びましょう。リフレクティングはナラティヴ・アプローチの家族療法家であったノルウェーのトム・アンデルセンの実践から生まれてきた方法です。この技法の背後には近代の専門家支配というイデオロギーを超えんとする価値観や理念が含まれてもいます。フィンランドの実践を見ると、オープンダイアローグの基礎には、リフレクティグ・プロセスがあって、全体が展開していると分かります。

【注意】これは 8 月に東京で行われたワークショップの続きです。ただし、前のワークに参加していなくとも、入れるようにしたいと思っています。但し、この小冊子の中にある前回の報告はぜひ読んでおいてください。前回と同様にいくつかのレクチャーもしますが、少しでも実際に試みながらリフレクティング・プロセスを学んで行きます。オープンダイアローグを全く知らない人も、リフレクティングがどういうことなのかわからない人も全員参加できるようにします。但し、きれいにまとめあげることはしません。

★日本臨床心理学会は、本来は対話こそを大切にしようという精神をもって来たと思いますが、時代状況の変化とともに、内部的にも対外的にも多くの困難と問題を抱え、それが以前にまして難しくなっているところが出てきています。学会というこの組織とそこに集まる人の集団の抱える困難や障害をいかに乗り越えるか、このワークショップのファシリティタとしては、これに対しての強い願いをずっと抱いて来ました。回り道でもワークショップを通じて流れることから、日常の動きや流れに新しいものが現れることを!と。今回もワークショップでは、この学会の組織や関連の集団における問題などは扱いません。そのためには全く別の設定が必要と思っているからです。これを承知して参加ください。

日時: 2016年11月12日 10~16時

場所:京都橘大学 響友館 F 401 号室

京都市山科区大宅山田町 34 TEL:075-571-1111 参加費:会員 1,000 円 非会員 2,000 円 学生 800 円

★人数に制限がありますので、申し込みが必要です。

申し込み先: takino@tachibana-u.ac.jp

交通:京都市営地下鉄東西線 「椥辻 (なぎつじ) 駅」 下車徒歩約 15 分(市営地下鉄京都駅から約 30 分) 京都駅 (八条口) 9 時 10 分発のバスがあります。 大学のサイトから交通アクセスでお調べください。 地下鉄「棚辻(なぎつじ)」駅から本学までのご案内 京都市営地下鉄東西線「椥辻駅」下車/東へ徒歩約15分

